天狗山

天狗山（532.5 m）頂上付近の 5 つの展望台から小樽の街と小樽港の眺めを楽しむことができます。晴れた日には石狩湾の向こう側に暑寒別岳（1,491 m）を見ることができます。天狗山の西方には山の多い積丹半島が日本海に突き出しています。天狗山の上部斜面まで約 4 分で行く小樽天狗山ロープウェイを使うと展望デッキまで簡単にアクセスできます。

眼下に見える街

天狗山から見ると、小樽の街が海岸線を抱え込んでいる様子がよくわかります。この街は勝納川の河口付近に作られた小さな港から始まりました。その後 19 世紀後半に最初の鉄道が開通すると、町は鉄道に沿って港の北端の手宮棧橋に向かって発展しました。

石炭棧橋までの鉄道線路跡は今でも街の中心部分に見ることができます。運河近くに建てられた 19 世紀と 20 世紀初頭の優美な銀行やホテルが街の繁栄や、住民たちの保存活動の証を彷彿とさせます。

北海道へのスキーの伝来

天狗山は、北海道で最も歴史あるスキー場の 1 つであり、1923 年の第 1 回全日本スキー選手権大会の開催地として役割を果たしました。スキーはオーストリア＝ハンガリー帝国のテオドール・フォン・レルヒ中佐（1869 年–1945 年）が新潟県で日本の歩兵第 58 連隊に技術を教えた 1911 年に日本に導入されました。高校教師が 1912 年に新潟でスキーの方法を学び、生徒のためにスキー板を持ち帰ったことで小樽に伝わりました。同年、フォン・レルヒは、倶知安近くの羊蹄山（1,898 m）でスキーを滑り、あっという間に北海道でスキーが始まりました。街からのアクセスのよさもあり、天狗山は、人気のスキー場となりました。

地勢

5 月の中旬には、「テングサクラ」として知られる一本の桜の木が頂上のロープウェイの駅の近くで満開を迎えます。この木は樹齢 100 年を超えていると考えられている自生のエゾヤマザクラ（学名：Hokkaido mountain cherry）です。全長 1.6 キロのハイキング道が山頂周辺の森林を通り抜けています。白樺、鶺鴒松明樺、岳樺が、ハイキング道沿いに生い茂っています。暖かい季節にはハイカーは春から秋にかけてこのエリアに生息するアオバトを見るかもしれません。保護種であり、国の天然記念物である珍しいウマゲラが 1 年を通じて天狗山の森林で暮らしています。冬になると、雪の中にキタキツネやこの土地特有のエゾシカを見つけられるかもしれません。